

告知と宣告の巻 その1

私たちが使う言葉には、本来の意味に加えてもれなくオマケが付いて来ることがあります。そのいい例が「告知」と「宣告」ではないかと思います。今回はまず「告知」についてみていきましょう。一般に私たちが使う言葉には、本来の意味に加えてもれなくオマケが付いて来ることがあります。そのいい例が「告知」と「宣告」ではないかと思います。

一般に「告知」と言えば、生活上必要な情報を発信することを指します。商業的には製品仕様の変更とか価格の改定などを周知することなどが挙げられます。テレビで芸能人が次に出演するドラマなどを宣伝することも「告知」と言われますね。それらに対して、医療における「告知」はかなり特殊な場面でしょう。宗教絵画のテーマで「受胎告知」というのを目にされたこともあると思いますが、それくらい特別な感じではないでしょうか。なぜとって、ふつう医者から「あなたの病名は風邪だと告知された」なんて言わないでしょう？告知と言えばたいい「がん」と相場が決まっています。風邪でも虫垂炎でもなく、もっと言えば心筋梗塞などのきわどい病気の場合でも、めったに「告知された」とは言いません。

言い慣わしというのは不思議なものです。なぜ、がんの場合に限ってわざわざ「告知」なのか？それは、世間の常識では「がん」という病名がとくべつに悪質だからです。ふつうのひとが思いつく最悪の病気が、がんなのかもしれません。ある病気の重さへの認識は、診断した医者とか検査結果、あるいはのちに判明していく経過が決めるのではなく、じつは「世間の常識」によってあらかじめ決めつけられている部分が大きいといえるでしょう。その、あらかじめ決めつけられたイメージのために、必要以上に重くなった病名を、「はいこれあなたのです」って抱え込まされる重圧というものが「告知」の重さなのだと思います。だから、医者側の側も受け取る側の重さを想定してたいそう気が重いし、じっさい重く振る舞ってしまう。その結果、双方が「世間の常識」に合わせた重さを共同で演出してしまう傾向は否めません。世間の文脈を、思わずなぞってしまうのです。

医療の進歩により、がんが必ずしも「診断されたら即、手遅れで苦しみぬく」ような時代ではなくなっているのに、「世間の常識」はアップデートされません。メディアがドラマチックなケースばかりを大きく取り上げることも一因かもしれません。病名は同じでも、経過は本当に人それぞれです。自分の場合はどうなのか？世間のイメージに惑わされず、間違った思い込みや余計な雑音を差し引いた正味の重さだけで勝負したいものです。もしあなたにそのような順番が回ってきたら、そして最初に受け取った荷物があまりに重すぎたなら、その中身の正味の重さを知るために助けを求めてください。ドアはいつでも開けているつもりです。「告知」と言えば、生活上必要な情報を発信することを指します。商業的には製品仕様の変更とか価格の改定などを周知することなどが挙げられます。テレビで芸能人が次に

出演するドラマなどを宣伝することも「告知」と言われますね。それらに対して、医療における「告知」はかなり特殊な場面でしょう。

宗教絵画のテーマで「受胎告知」というのを目にされたこともあると思いますが、それくらい特別な感じではないでしょうか。なぜとって、ふつう医者から「あなたの病名は風邪だと告知された」なんて言わないでしょう？告知と言えたい「がん」と相場が決まっています。風邪でも虫垂炎でもなく、もっと言えば心筋梗塞などのきわどい病気の場合でも、めったに「告知された」とは言いません。

言い慣わしというのは不思議なものです。なぜ、がんの場合に限ってわざわざ「告知」なのか？それは、世間の常識では「がん」という病名がとくべつに悪質だからです。ふつうのひとつが思いつく最悪の病気が、がんなのかもしれません。

ある病気の重さへの認識は、診断した医者とか検査結果、あるいはのちに判明していく経過が決めるのではなく、じつは「世間の常識」によってあらかじめ決めつけられている部分が多いといえるでしょう。その、あらかじめ決めつけられたイメージのために、必要以上に重くなった病名を、「はいこれあなたのです」って抱え込まされる重圧というものが「告知」の重さなのだと思います。だから、医者の側も受け取る側の重さを想定してたいそう気が重く、じっさい重く振る舞ってしまう。その結果、双方が「世間の常識」に合わせた重さを共同で演出してしまう傾向は否めません。世間の文脈を、思わずなぞってしまうのです。

医療の進歩により、がんが必ずしも「診断されたら即、手遅れで苦しみぬく」ような時代ではなくなっているのに、「世間の常識」はアップデートされません。メディアがドラマチックなケースばかりを大きく取り上げることも一因かもしれません。病名は同じでも、経過は本当に人それぞれです。自分の場合はどうなのか？世間のイメージに惑わされず、間違っただけの思い込みや余計な雑音を差し引いた正味の重さだけで勝負したいものです。もしあなたにそのような順番が回ってきたら、そして最初に受け取った荷物があまりに重すぎたなら、その中身の正味の重さを知るために助けを求めてください。ドアはいつでも開けているつもりです。